		第2回	PBL 活動の内容			_	対面		
		第3回	通常の業務	8では、単独で問題角	解決にあたることは稀で、通常は複数メンバか	_	対面		
		第4回	らプロジェ	クトが構成される。	本学 PBL では、これを反映し、5 名程度のメ	1	対面		
		第5回	ンバからフ	プロジェクトを構成し	し、問題解決のために協働作業を行う。社会人	_	対面		
		第6回	学生が多数	なを占める本学では、	構成メンバの年齢・職業・職位・経験等は様々	_	対面		
		第7回	で、20代記	前半の社会人経験の	無い学生、30代の適度に経験を積んだ技術者、	_	対面		
		第8回	50 代の一流	流企業の部長級という	_	対面			
		第9回	バ構成が実	現することも多い。	_	対面			
		第10回	通常の業務	アプロジェクトは、反	成果はもちろんであるが、計画に従った進捗管	_	対面		
		第11回	理も要求さ	れる。本学 PBL でに	は、メンバ及び指導教員と相談し、プロジェク	_	対面		
		第12回	ト計画を作	■成し、計画的に作業	業したり、計画を修正したりすることによって	_	対面		
		第13回	プロジェク	7ト管理を体験する。		_	対面		
		第14回	• 1Q 及び 20	(の期間(10 月から	2月)で15週間、週に3回(9時間以上)の		対面		
		为 14 凹	PBL メンバ	との協働作業等の活	動、教員報告等を行う。		対面対面		
			• 月曜日に名	ら自の活動等を週報	(週間活動報告書)として提出する。		刈山		
			• 3Q \(\geq 4Q \(\text{O}\))各終了時に所定の :	SA(Self-Assessment)を提出する。				
		第 15 回	4Qの最後	こ開催される PBL プ	ロジェクト成果発表会で、活動の成果を発表す	_			
			る。						
		試験	PBL プロジェクト	成果発表会					
		武功兴	PBL プロジェクト	活動の成果を発表す	⁻ る。	_	_		
		PBL 型科	目の成績は、3 名以	人上の教員で評価点を	を付け、すべての専任教員が参加する成績判定会	議で成績	評価を決		
		定する。評	M価点は、PBLの「A	成果」及び「活動状活	況」を「質」及び「量」と、あらかじめ設定され	た到達目	票に達成		
		度による評	こよる評価(コンピテンシー獲得度)から評価を行う。前者は PBL 活動の評価で、後者は獲得したコンピテンシ						
		一の評価で	ご ある。						
E	成績評価	前者 PBL	活動の評価は、活	動状況の質と量、及び成果の質と量の4つの視点で評価項目を定め、100点満点で評価					
				たコンピテンシーの評価はあらかじめ設定された7つのコアコンピテンシーご。					
		-	基準の達成度によ	準と重みは	t PBL ご				
		とに設定す							
		評価基準	೬と重み等、成績評	価の詳細はプロジェ	:クトごとに定める「PBL プロジェクト説明書」マ	を参照のこ	. ک		
⊉/₁1	料書・教材	プロジェク	7トごとに定める「	PBL プロジェクト説	明書」を参照のこと。				
子Х↑	す音・教的								
		プロジェク	7トごとに定める「	PBL プロジェクト説	明書」を参照のこと。				
1	参考図書								
		<u> </u>		V#/D=7/12 - A					
獲得	可能なコンピ	゚゚テンシー		獲得可能度合	 獲得可能な内容				
	•			(⊚ ○ △ −)					
	コミュニケ	ーション能力		0					
メースとは一般に対しています。				0					
ターチーム活動				0					
システム提案・ネゴシエーション・説得				0					
ドキュメンテーション				0					
革新的概念・発想				©					
			 アット的視点	0					
ア	問題解決	⊸	2 1 -3 120/11	0					
		ップ・マネシ	ジメント	©					
	ファンワテ	ーション・訓	可正	0					

専攻名	創造技術専攻	必修・選択	必修	単位	6	学期	1-2Q
初日批	事業アーキテクチャ特別	科目名	事業アーキテクチャ特別演習 b1			物品々	市协会教员
科目群	演習 b	(英文表記)	Advanced Exercises: Business Architectureb1			教員名	専攻全教員

概要	1年次では、知識とスキルを修得するが、これだけでは高度人材として活躍することは出来無い。実際の業務を成功に導くためには、経験及び業務遂行能力(コンピテンシー)が不可欠ある。2年次では、成長領域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを経験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために、PBL型(Project Based Learning)のプロジェクト演習を行う。当科目の PBL 型演習では、事例研究・事業設計にしたがって、実際に事業の開発・検証等を行う。							
目的・狙い	活用経験を蓄積し、さらにコンピ 仕事、多くの職場や地域社会で多 問題解決・交渉・モチベーション 高度人材に必要とされる業務遂行	1 年次に修得した知識・スキルを応用して、実際の業務に近いプロジェクトを経験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得する。本学が提唱する「コンピテンシー」に類似する概念には、仕事、多くの職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を意味する「社会人基礎力」、問題解決・交渉・モチベーションアップ等の非定型の対人的技能を意味する「ソフトスキル」等がある。本学では、高度人材に必要とされる業務遂行能力として、情報アーキテクチャ専攻では「7つのコアコンピテンシー」、創造技術専攻では「5つのコアコンピテンシー」、さらにこれらの源として以下の「3つのメタコンピテンシー」を設定している。						
	修得できるコンピテンシー: (B1) コミュニケーションカ (B2) 継続的学修と研究の能力 (B3) チーム活動							
前提知識(履修条件)	修了要件 40 単位として認められる単位を 22 単位以上取得し、うち基礎科目以外が 16 単位以上であること(10 月入学で、翌年の PBL の履修を希望する者は、修了要件 40 単位として認められる単位を 12 単位以上取得していること)。 事業アーキテクトコースで指定される推奨科目を 10 単位以上取得していること。 配属にあたって、希望する教員が指導するプロジェクトチームの希望者が定員を超える場合は、別途定める選抜順によって配属を決定する。プロジェクト配属ルール、履修条件の詳細は、別途定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。							
到達目標	· · · · · ·	を駆使し	プロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準で概ね4以上の評価を受け , 問題発見・解決を牽引することができるレベルであり、下位レベルの ル(概して80点〜90点)					
	· · · · · ·		プロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準でおおむね2以上の評価を使し、問題発見・解決ができるレベルである。最低到達レベル(概して					
授業の形態	形態 実施 特徴・留意点 録画・対面混合授業 - 対 講義(双方向) - 度 実習・演習(個人) - 実習・演習(グループ) 学生自ら時間・場所を決め、活動する。 サテライト開講授業 -							
授業外の学習	原則として、メンバとの協働作	その他 ○ 遠隔会議システムを利用した活動を行う場合がある。 原則として、メンバとの協働作業等の授業活動を週に9時間以上、授業外活動を9時間以上、15週間継続すること。授業外活動は、PBL活動のために知識・スキルの事前学習、各メンバに割り当てられた課題の調査等を行う。						
授業の内容	以下に示す PBL 活動を行う。PB る。	BL 活動のP	内容詳細は「PBL プロジェクト説明書」でプロジェクトごとに示されてい					

		回数			内容	サテライ ト開講	対面録画			
			プロジェクトキッ			1 1#19#9				
		第1回			(の役割等に関する議論を行う。	-	対面			
		第2回	PBL 活動の内容			_	対面			
		第3回	通常の業務	では、単独で問題解	_	対面				
		第4回	らプロジェ	クトが構成される。	本学 PBL では、これを反映し、5 名程度のメ	_	対面			
		第5回	ンバからフ	ロジェクトを構成し	し、問題解決のために協働作業を行う。社会人	_	対面			
		第6回	学生が多数	を占める本学では、	構成メンバの年齢・職業・職位・経験等は様々	_	対面			
		第7回	で、20 代育	前半の社会人経験の	無い学生、30 代の適度に経験を積んだ技術者、	_	対面			
		第8回	50 代の一流	記企業の部長級とい ^っ	うメンバ構成等、通常の大学院では珍しいメン	_	対面			
塪	業の計画	第9回	バ構成が実	現することも多い。	各 PBL は 3 名の教員が指導にあたる。	_	対面			
JX	未り川凹	第10回	• 通常の業務	プロジェクトは、6	成果はもちろんであるが、計画に従った進捗管	_	対面			
		第11回	理も要求さ	れる。本学 PBL でに	は、メンバ及び指導教員と相談し、プロジェク	_	対面			
		第12回	ト計画を作	成し、計画的に作業	業したり、計画を修正したりすることによって	_	対面			
		第13回	プロジェク	'ト管理を体験する。			対面			
		第14回	• 1Q 及び 2Q	の期間 (4月から8	月)で 15 週間、週に 3 回 (9 時間以上) の PBL	_				
		第 14 凹	メンバとの	協働作業等の活動、	教員報告等を行う。	_	対面			
			• 月曜日に各	自の活動等を週報	(週間活動報告書)として提出する。		対面			
		第 15 回	• 1Q と 2Q の	各終了時に所定の!	SA(Self-Assessment)を提出する。	_				
		75 IS II	各Qの最後	後に開催される中間!	成果発表会で、活動の成果を発表する。					
		=-#FA	中間発表会							
		試験	1-2Q の活動の成界	見を発表する。		_	_			
		PBL 型科	目の成績は、3 名以	上の教員で評価点を	- を付け、すべての専任教員が参加する成績判定会	議で成績	評価を決			
		定する。評	P価点は、PBLの「瓦	は果」及び「活動状活	況」を「質」及び「量」と、あらかじめ設定され	た到達目	標に達成			
		度による評	F価(コンピテンシ	ー獲得度)から評価を行う。前者は PBL 活動の評価で、後者は獲得したコンピテンシ						
		ーの評価で	である 。							
万	战績評価	前者 PBI	. 活動の評価は、活動	動状況の質と量、及	び成果の質と量の 4 つの視点で評価項目を定め、	100 点満;	点で評価			
		する。また	獲得したコンピテン	ンシーの評価はあら	かじめ設定された 7 つのコアコンピテンシーご。	との 0~5 0	の評価基			
		準に対し、	基準の達成度によ	り点数を付ける。活動の評価基準と重み、コンピテンシーの評価基準と重みは PBL ご						
		とに設定す	tる。							
		評価基準	≛と重み等、成績評∙	価の詳細はプロジェ	・ クトごとに定める「PBL プロジェクト説明書」を	を参照のこ	ع:			
					明書」を参照のこと。					
教科	斗書・教材									
		-f	al ブレルウはフ 「i		明書 を参照のこと。					
参	多考図書	ノロシエク	/トことに正める 11	PBL ノロシエクト説	明青」を参照のこと。					
_										
	_			獲得可能度合						
獲得	可能なコンピ	:テンシー		(◎ ○ △ −)	獲得可能な内容					
	771	> _ \ AF	-							
メ	コミュニケ			© -						
タ	継続的学修		J	0						
チーム活動			_	0						
システム提案・ネゴシエーション・説得			Lーション・説得	0						
ドキュメンテーション				0						
革新的概念・発想				0						
コ	ニーズ・社会	会的・マーク	アット的視点	0						
	問題解決			0						
	リーダーシ	ップ・マネシ	ジメント	0						
ファシリテーション・調整				0						

専攻名	創造技術専攻	必修・選択	必修	単位	6	学期	3-4Q
	事業アーキテクチャ特別 演習 b	科目名	事業アーキテクチャ特別演習 b2				
科目群		(茶女圭訂)	Advanced Exercise	es: Business A	rchitecture	教員名	専攻全教員
	供白 D	(英文表記)	b2				

概要	功に導くだ を特定し、 経験するこ Learning) の開発・模	さめには、経験及び業務 現実の課題に対する問 ことで、知識・スキルの活 のプロジェクト演習を 対証等を行う。	が遂行能力 問題解決・ 5用経験を を行う。当	これだけでは高度人材として活躍することは出来無い (コンピテンシー)が不可欠ある。2 年次では、成長領 事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近 蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために、PBL 科目の PBL 型演習では、事例研究・事業設計にしたか PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。	域の現状だいプロジ 型(Projed	から問題 ェクトを ct Based			
目的・狙い	活用経験を 仕事、多く 問題解決・ 高度人材に	1 年次に修得した知識・スキルを応用して、実際の業務に近いプロジェクトを経験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得する。本学が提唱する「コンピテンシー」に類似する概念には、仕事、多くの職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を意味する「社会人基礎力」、問題解決・交渉・モチベーションアップ等の非定型の対人的技能を意味する「ソフトスキル」等がある。本学では、高度人材に必要とされる業務遂行能力として、情報アーキテクチャ専攻では「7 つのコアコンピテンシー」、創造技術専攻では「5 つのコアコンピテンシー」、さらにこれらの源として以下の「3 つのメタコンピテンシー」を設定している。							
	(B1)コミ (B2)継糸	修得できるコンピテンシー: (B1) コミュニケーションカ (B2) 継続的学修と研究の能力 (B3) チーム活動							
	「事業フ		Bb1」の単	望位を取得していること。					
前提知識(履修条件)	配属にあ	配属にあたって、希望する教員が指導するプロジェクトチームの希望者が定員を超える場合は、別途定める選抜順によって配属を決定する。プロジェクト配属ルール、履修条件の詳細は、別途定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。							
到達目標	る。これは 育成ができ 最低到達目 「PBL プロ	ジェクト説明書」に記載 は、専門の知識・スキル きるレベルである。上位 目標 ジェクト説明書」に記載 これは、専門の知識・ス	レを駆使し 2到達レベ 戦されたフ	プロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準で概ね 4, 問題発見・解決を牽引することができるレベルであい (概して 80 点〜90 点) プロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準でおおもでし、問題発見・解決ができるレベルである。最低到	5り、下位に	ンベルの			
		ガノ会ち		바/// (77 축 는					
	名面 分子	形態	実施	特徴・留意点					
	録画・対面 対面 講義	(双方向)	_						
授業の形態	面中羽	(双刀回) ・演習(個人)	_						
1又来りか忍	12 //-	・演音(個人)・演習(グループ)	0	学生自ら時間・場所を決め、活動する。					
	サテライト		_	3 ― 日 フで1日					
	その他		0	↓ │ 遠隔会議システムを利用した活動を行う場合がある	0				
		 Jて、メンバとの協働作		業活動を週に9時間以上、授業外活動を9時間以上、		続するこ			
授業外の学習				・スキルの事前学習、各メンバに割り当てられた課題の					
授業の内容	以下に示る。	itす PBL 活動を行う。PE	BL 活動のP	内容詳細は「PBL プロジェクト説明書」でプロジェクト	でとに示	されてい			
	回数			内容	サテライ ト開講	対面 録画			
授業の計画	第1回	プロジェクトキックス	<u></u> オフ			対面			
	和III	プロジェクトの内容、	進行、各	トメンバの役割等に関する議論を行う。	_	Ших			
	第2回	PBL 活動の内容			_	対面			

		第3回			解決にあたることは稀で、通常は複数メンバか	_	対面			
		第4回			, 本学 PBL では、これを反映し、5 名程度のメ	_	対面			
		第5回	1		し、問題解決のために協働作業を行う。社会人	_	対面			
		第6回			を占める本学では、構成メンバの年齢・職業・職位・経験等は様々 近半の社会人経験の無い学生、30代の適度に経験を積んだ技術者、					
		第7回								
		第8回			うメンバ構成等、通常の大学院では珍しいメン	_	対面			
		第9回			、各 PBL は 3 名の教員が指導にあたる。	_	対面			
		第 10 回			成果はもちろんであるが、計画に従った進捗管 は、 パンバルがお着を見れない。 プロジェク	_	対面			
		第 11 回			は、メンバ及び指導教員と相談し、プロジェク 業したり、計画を修正したりすることによって	_	対面			
		第 12 回		ケル管理を体験する。		_	対面			
		第 13 回			。 6 2 月)で 15 週間、週に 3 回(9 時間以上)の	_	対面			
		第 14 回			5動、教員報告等を行う。	_	対面			
					(週間活動報告書)として提出する。		対面			
					SA(Self-Assessment)を提出する。					
		第 15 回			プロジェクト成果発表会で、活動の成果を発表す	_				
			る。							
		= N.T.A	PBL プロジェクト							
		試験	PBL プロジェクト	ト活動の成果を発表す	する。	_	_			
		PBL 型科	目の成績は、3名	以上の教員で評価点		議で成績	評価を決			
		定する。評価点は、PBLの「成果」及び「活動状況」を「質」及び「量」と、あらかじめ設定された到達目標に達成								
		度による評	度による評価(コンピテンシー獲得度)から評価を行う。前者は PBL 活動の評価で、後者は獲得したコンピテンシ							
		ーの評価で	ーの評価である。							
J.	成績評価	前者 PBI	L活動の評価は、活	動状況の質と量、及び成果の質と量の 4 つの視点で評価項目を定め、100 点満点で評価						
		する。また	き獲得したコンピテ	ンシーの評価はあらかじめ設定された 7 つのコアコンピテンシーごとの 0〜5 の評価基り点数を付ける。活動の評価基準と重み、コンピテンシーの評価基準と重みは PBL ご						
		準に対し、	基準の達成度によ							
		とに設定す	する。							
		評価基準	隼と重み等、成績評	価の詳細はプロジェクトごとに定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。						
±/- 1	N ==	プロジェク	フトごとに定める	「PBL プロジェクト説	明書」を参照のこと。					
40人	抖書・教材									
		プロジェク	フトごとに定める	 「PBL プロジェクト説	明書 を参照のこと。					
1	多考図書				· · · · ·					
獲得	可能なコンピ	゚テンシー		獲得可能度合	 獲得可能な内容					
J& (\)	. 100.00.00	.,,,,		(⊚ ○ △ −)	SERT FINE OF SE					
,	コミュニケ	ーション能力	カ	0						
メ	継続的学修	と研究の能力	カ	0						
タ	チーム活動			0						
			エーション・説得	0						
	ドキュメン	テーション		0						
ドキュメンテーション 革新的概念・発想				0						
			 ケット的視点	0						
ア	問題解決			0						
		 ップ・マネシ	ジメント	0						
				0						
ファシリテーション・調整					J					

5.5 履修の手引(抜粋)

平成27年度 産業技術大学院大学 学年暦

年	月	日	曜日	行 事 名
		1	水	春季休業期間 (~4月3日(金)まで)
		4	\pm	入学式, ガイダンス
	4	6	月	第1クオータ授業開始
		6	月	履修申請期間【第1・2クォータ (~4月12日(日)まで)】
		27	月	休業期間 (~5月6日(水)まで)
	5	7	木	授業再開
		12	金	第1クオータ終了
	6	13	土	第2クォータ授業開始
	0	13	\pm	履修申請期間【第2クォータ (~6月26日(金)まで)】
		24	水	第1クォータ成績開示
	7	20	月	海の日 ※授業実施
		10	月	第2クォータ終了
27	8	11	火	夏季休業期間 (~10月1日(木)まで)
21		20	木	第2クォータ成績開示(PBL以外)
	9	19	土	9月学位授与式
		1	木	10月入学式,ガイダンス
	10	2	金	第3クォータ授業開始
		2	金	履修申請期間【第3・4クォータ (~10月8日(木)まで)】
		12	月	体育の日 ※授業実施
		24	土	高専祭 ※授業実施
		1	火	第3クォータ終了
		2	水	第4クォータ授業開始
	12	2	水	履修申請期間【第4クォータ (~12月15日(火)まで)】
	12	5	土	創立記念日 ※授業実施
		11	金	第3クォータ成績開示
		23	水	冬季休業期間 (~1月3日(日)まで)
	1	4	月	授業再開
		11	木	AIIT PBL プロジェクト成果発表会
28	2	11	木	第4クォータ終了
20	2	12	金	春季休業期間 (~4月初旬まで)
		19	金	第4クォータ成績開示
	3	19	土	学位授与式

※日程が変更になる場合は、ポータル掲示板等でお知らせします。

<各クォータの	開講期間は以下のとおりです。>
第1クォータ	4月6日(月)~6月12日(金) 【4月27日(月)~5月6日(水)を除く】
第2クォータ	6月13日(土)~8月10日(月) ※7/20(月・祝)授業実施
第3クォータ	10月2日(金)~12月1日(火) ※10/12(月・祝)授業実施
第4クォータ	12月2日(水)~2月11日(木) 【12月23日(水)~1月3日(日)を除く】

平成27年度 産業技術大学院大学 授業カレンダー

4月	2015年					
日	月	火	水	木	金	±
			1	2	3	4
						入学式
5	6	7	8	9	10	- 11
	10	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q
			履修申	請期間		
12	13	14	15	16	17	18
	1Q	1Q	10	1Q	1Q	1Q
19	20	21	22	23	24	25
	1Q	1Q	10	1Q	10	10
26	27	28	29	30		
					l	

5月						
日	月	火	水	木	金	±
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
				1Q	1Q	1Q
10	11 1Q	12 1 Q	13 1 Q	14 1Q	15 1 Q	16 1 Q
	IQ	IQ	IQ	IQ	IQ	10
17	18 1 Q	19 1 Q	20 1Q	21 1 Q	22 1Q	23 1 Q
24	25 1Q	26 1 Q	27 1Q	28 1 Q	29 1 Q	30 1Q
31						
	1					

6月						
B	月	火	水	木	金	±
	1	2	3	4	5	6
	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q	10
7	8	9	10	- 11	12	13
	1Q	1Q	1Q	予備日	予備日	2Q
14	15	16	17	18	19	20
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q
		- 一 履	修申請期	[8]		
21	22	23	24	25	26	27
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q
		履修申	誘期間			
28	29	30				
	2Q	2Q				
		•				

B	月	火	水	木	金	±
			1 2Q	2 2Q	3 2Q	4 2Q
5	6	7	8	9	10	11
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	2G
12	13	14	15	16	17	18
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	2 G
19	20	21	22	23	24	25
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	2G
26	27 2Q	28 2Q	29 2Q	30 2Q	31 2Q	

8月						
B	月	火	水	木	金	±
						1 2Q
2	3	4	5	6	7	8
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	予備日
9	10 予備日	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月						
B	月	火	水	木	金	±
		1	2	3	4	5
^	7			40	44	
6	,	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
						学位授与式
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			
				l		

10月														
							,	11月						
B	月	火	水	木 1	金 2	± 3		日 1	月 2	火 3	水 4	- 木	金 6	± 7
					3Q	3Q			3Q	3	3Q	3Q	30	3Q
				入学式		請期間			- Ou		- 04	- 04		
4	5	6	7	8	9	10		8	9	10	- 11	12	13	14
	3Q	3Q 修申請期	3Q	3Q	3Q	3Q			3Q	3Q	3Q	3Q	3Q	3Q
11	12	13	14	15	16	17		15	16	17	18	19	20	21
	3Q	3Q	3Q	3Q	3Q	3Q			3Q	3Q	3Q	3Q	3Q	3Q
18	19	20	21	22	23	24		22	23	24	25	26	27	28
10	3Q	3Q	3Q	3Q	3Q	3Q		22	23	3Q	3Q	3Q	予備日	
							i						/	/=-
25	26	27	28	29	30	31		29	30					
	3Q	3Q	3Q	3Q	3Q	3Q			3Q					
\vdash			-				ı			ı				
12月								1月	2016年					
日	月	火	水	木	金	±		日	月	火	水	木	金	±
		1 3Q	2 4Q	3 4Q	4 4Q	5 4Q							1	2
		34	44	服務申		44								
6	7	8	9	10	11	12	i	3	4	5	6	7	8	9
	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q			4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q
			修申請期											
13	14 4Q	15 4Q	16 4Q	17 4Q	18 4Q	19 4Q		10	11	12 4Q	13 4Q	14 4Q	15 4Q	16 4Q
- RF	修申請期	163	74	74	746	74				74	74	74	74	74
20	21	22	23	24	25	26	i	17	18	19	20	21	22	23
	4Q	4Q							4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q
- 07	00	- 00	- 00	04			ļ		05		0.7	00	-00	
27	28	29	30	31				24	25 4Q	26 4Q	27 4Q	28 4Q	29 4Q	30 4Q
									,		74			74
								31						l
								31					1	l
								31						
								31						I
2月							ī	3月						
2月	Л	火	*	*	金	±]		Я	火	ж.	*	金	±
	1	2	3	4	5	6		3月	月	火 1	水 2	<u>木</u> 3	金 4	± 5
								3月	Я					
	1 4Q 8	2 4Q 9	3 4Q 10	4 4Q	5	6		3月	月 7					
B	1 4Q	2 4Q	3 4Q	4 4Q	5 4Q	6 4Q		3月		1	2	3	4	5
7	1 4Q 8 4Q	2 4Q 9 予備日	3 4Q 10 予備日	4 4Q 11 PBL発表会	5 4Q 12	6 4Q 13		3月日	7	8	9	10	11	12
B	1 4Q 8	2 4Q 9	3 4Q 10	4 4Q	5 4Q	6 4Q		3月		1	2	3	4	5
7	1 4Q 8 4Q	2 4Q 9 予備日	3 4Q 10 予備日	4 4Q 11 PBL発表会	5 4Q 12	6 4Q 13		3月日	7	8	9	10	11	12

1 はじめに

(1) 本学の使命・目的

産業技術大学院大学(以下「本学」という。)は、学術の理論及び応用を教授研究し、 高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを 目的として、専門知識及び体系的ノウハウを活用して新しい価値を創造し、産業振興に 貴する豊かな人間性・独創性と意欲・能力を備えた高度専門職人材を育成し、もって都 民の生活と文化の向上及び発展に寄与することを使命としています。

インターネットの普及率が約80%に達し、IT社会が到来している今日、IT技術の中核を担う IT高度専門職技術者は数十万人規模で不足しているという試算があります。特に企業等での業務を的確に把握し、情報システムあるいはソリューションを戦略的に立案したり、最も適した設計を行ったり、開発プロジェクトを効率的に牽引したり、実際に専門の知識を活かした実装・構築を効果的に行ったりすることができる技術者が不足しています。

また、ものづくりにおいては、新産業革命と呼ばれるハードとソフトが融合した新たなデジタルデザインプロセスへの革新が始まっています。そこでは、産業革命以降に職能として分化したデザインとエンジニアリングを再統合し、機能と感性を駆使したものづくりができる技術者が求められます。さらに、大規模な産業プロセスから多品種少量生産製品に至るまで、ものづくりの個別プロセスで得られている普遍的な知見を統合したものづくり技法に精通した技術者が求められています。

本学では、情報アーキテクチャ専攻と創造技術専攻の 2 つの専攻を設置し、情報システムの戦略・提案から実装・運用等の開発工程を実行したり、また情敵的に開発作業を牽引・管理したりできる「情報アーキテクト」と、技術マネジメント [MOT (management of technology)]能力と、デザインマネジメント [MOD (management of design)]能力をあわせ持ち、新たな価値を持つ製品を創造できる「ものづくりアーキテクト」を育成します。

(2) 専門職人材

本学が育成する専門職人材である「情報アーキテクト」及び「ものづくりアーキテクト」 の定義は以下のとおりです。

①情報アーキテクト

情報アーキテクトとは、企業等が利活用しているコンピュータ、ネットワーク等から構成される仕組みの総称としての情報システム開発のための各種のIT高度専門職技術者で共通キャリア・スキルフレームワークの「ストラテジスト」、「システムアーキテクト」、「プロジェクトマネージャ」、「テクニカルスペシャリスト」、「サービスマネージャ」及び、本学が独自に設定した「グローバルスペシャリスト」、「事業アーキテクト」に渡る範囲の人材像の職種の総称です。

②ものづくりアーキテクト

ものづくりアーキテクトとは、ものづくりの個別プロセスで得られている普遍的な知見 を統合したものづくり技法に精通し、技術マネジメント能力と、デザインマネジメント 能力をあわせ持ち、新たな価値を持つ製品を創造することができる人材で、特に、感性 設計力に秀でたデザイナー、機能設計力に秀でた開発設計技術者、感性と機能を統合し て開発をマネジメントできる人材、ならびに<mark>感性と機能を統合して事業をプロデュース</mark> できる人材(事業アーキテクト)を指しています。

情報アーキテクト及びものづくりアーキテクトを構成する人材像の一つで、「次世 代成長領域での事業開発・事業改革のための高度人材」を指します。具体的には、イ ノベーションによって従来の仕組みを改革し、事業を再構築(開発・再生)し、当該 成長分野の加速度的成長を効率的・効果的に実現できる高度人材や、単に新規事業を 企画して終わりとするのでは無く、事業戦略・マネジメント・IT技術と、成長分野に 関する高いレベルの知識を中核として、実際に描いた戦略から事業の構築、運用まで を実現できる人材の総称です。

(3) 学位の種類

本学で取得できる学位の種類は以下のとおりです。

①情報アーキテクチャ専攻

情報システム学修士 (専門職)

(Master of Technology in Information Systems)

②創造技術重攻

創造技術修士 (専門職)

(Master of Technology in Innovation for Design and Engineering)

(4) カリキュラムの特色等

①情報アーキテクチャ専攻

情報アーキテクチャ専攻では、情報アーキテクトに必要とされる (A) 知識・スキル と (B) 業務遂行能力 (コンピテンシー) を修得できるように、カリキュラムが設計されています。 概ね、(A) は講義・演習型科目で学び、(B) は PBL 型科目で学びます。
(A) 及び (B) の詳細は、p.14 ~16の別表1を参照してください。

情報アーキテクトが修得すべき知識・スキルは広範に渡るため、当専攻では、以下 の 7 種類の人材像ごとに対応するコースと、(ア)特に学ぶべき知識・スキル、(イ)推 奨科目、(ウ)配属 PBL を設定しています。コースの名称は、履修した科目、履修 PBL、 成績に応じて、修了時に付与する人材像(ディブロマ・サブリメント等に記載)にも 使います。各自の将来キャリアの目標にしたがって、コースを選択し、履修計画作成 にあたって、履修科目及び PBL を決定するガイドにしてください。複数のコースを選 択してもかまいません。また、成績評価等を考慮して目標を変更する場合はコースを 適宜変更しても構いません。

- 「ストラテジスト」コース
- 「システムアーキテクト」コース
- 「プロジェクトマネージャ」コース
- 「テクニカルスペシャリスト」コース
- 「サービスマネージャ」コース
- 「グローバルスペシャリスト」コース
- 「事業アーキテクト」コース

(ア) 特に学ぶべき知識・スキル

(1) 行に子ふへこ列間、ヘハナ 情報アーキテクトの人材像ごとに学ぶ知識・スキルはp.17の別表 2 のように設定さ れています。知識単位(中分類)は 24 項目ありますが、人材像ごとに特に 5 項目が選 ばれています。例えば、「テクニカルスペシャリスト」であれば、以下の知識・スキル を特に修得することが望まれます。 ・K-03-09《データベース》

- ・K-03-11《セキュリティ》
- ・K-03-10 《ネットワーク》
- ・K-04-12《システム開発技術》
- ・K-04-13《ソフトウェア開発管理技術》

(イ) 推奨科目

人材像のコースごとに 12 科目前後の推奨科目が設定されています。これらの科目の 履修により、(ア) に示す、特に学ぶべき知識・スキルが概ね修得できるように設計さ れています。履修した科目及び成績からどの程度の知識・スキルが獲得できたかの達 成度は在学中継続的に確認できます。

ストラテジストコース

- ・データインテリジェンス特論・ビッグデータ解析特論
- ・情報インタフェースデザイン特論
- ·IT特論
- · CIO 特論
- 標準化と知財戦略
- ・情報システム特論 2
- ・情報アーキテクチャ特論2 サービスサイエンス特論
- ・情報ビジネス特別講義1
- ・情報ビジネス特別講義4
- ・e ビジネス特論
 ・プロジェクト管理特論 2
- ・情報ビジネス特別講義 2
- ・情報ビジネス特別講義3

システムアーキテクトコース

- · 0SS 特論
- ・システムプログラミング特論
- ・インターネットプラットフォーム特論 ・ユビキタスプラットフォーム特論
- ・情報インタフェースデザイン特論
- ・IT 特論
- 標準化と知財戦略
- ・情報システム特論2
- サービスサイエンス特論